

# 金城町の古代・中世年表

時代	遺跡名	所在地	遺跡の概況	
縄文時代	前中	岩塚Ⅱ遺跡	金城町今福 土器、石鏃、磨石、スクレーパー、叩き石、剥片(黒曜石製及び安山岩製)、石斧、石核、石錘などが出土。	
	後晩	七渡瀬Ⅱ遺跡	金城町波佐 鐘崎式土器、突帯文土器(中山B式)、深鉢、浅鉢など。竪穴式住居跡の複合柱穴跡。	
	晩	水ヶ佐古門遺跡	金城町下来原	土器、石斧、遺物散布地
		槇ヶ曾根遺跡	金城町波佐	石斧、遺物散布地
後晩	七渡瀬遺跡Ⅱ遺跡	金城町波佐	土器、石斧、石鏃など。	
弥生時代	前	長田郷遺跡	金城町長田	土器、石斧、石鏃(安山岩製)、剥片石器、磨石、石錘、凹石、敲石、堅果類など出土。
		郷田門遺跡	金城町上来原	石斧、遺物散布地
		柿ノ木遺跡	金城町小国	石斧、遺物散布地
		寺田前遺跡	金城町長田	石斧、遺物散布地
	ナゴダ遺跡	金城町長田	石斧、遺物散布地	
	前中後	七渡瀬Ⅰ遺跡	金城町波佐	壺形土器、甕形土器、石錘、石鏃、敲石、剥片(黒曜石製及び安山岩製)。竪穴式住居跡。
後	七渡瀬Ⅱ遺跡	金城町波佐	壺形土器、甕形土器、石錘、石鏃、敲石、剥片(黒曜石製及び安山岩製)。竪穴式住居跡。	
古墳時代	前	長田郷遺跡	金城町長田	土器、土錘、石錘など出土。
		城ノ前遺跡	金城町長田	土器、土錘、石錘など出土。
	後	千年比丘1号墳	金城町長田	円墳(径15m)、砥石、鼓形器台、壺形土器。
		七渡瀬Ⅱ遺跡	金城町波佐	竪穴式住居址、甕形土器、
		金田1号墳	金城町下来原	左片袖式横穴式石室、須恵器の提瓶、高坏、須恵器蓋坏、高頸壺、短頸壺、土師器の坏、直刀、金環などが円墳の玄室から出土。
		金田2号墳	金城町下来原	円墳、直刀、消滅
猿ヶ馬場古墳	金城町下来原	横穴式石室、消滅		
下長屋古墳	金城町下来原	横穴式石室、須恵器の蓋坏、把手碗出土。		
火塚平古墳	金城町下来原	横穴式石室		
今福古墳	金城町今福	横穴式石室、消滅		
奈良・平安時代	水ヶ佐古門遺跡	金城町下来原	須恵器の蓋坏・甕底部・坏底部・甕胴部など	
	長田郷遺跡	金城町長田	須恵器の坏・甕など。	
	城ノ前遺跡	金城町長田	須恵器の破片。	
	恵日山本覚寺跡	金城町長田	承平年間(931-937年)に創設、戦火で消滅。	
	八幡岩遺跡	金城町長田	宇佐八幡宮から最初の勧請地。	
	宮地谷遺跡	金城町長田	大歳神社の最初の勧請地。神亀2年(725年)。	
	七渡瀬Ⅱ遺跡	金城町波佐	竪穴式住居址、甕形土器、	
鎌倉時代	岩塚Ⅱ遺跡	金城町今福	青磁(中国産)	
	長田郷遺跡	金城町長田	青磁(中国産)	
	波佐一本松城跡	金城町波佐	主郭、竪畝状空堀群(竪畝形阻塞)、礫石置き場、建武3年(1336年)8月25日、波佐谷の合戦	
	水見城跡	金城町波佐	主郭、空堀、武者走り、帯郭など。	
	大人遺跡	金城町波佐	大人の足跡(36センチ)。たたら遺跡と関連あり。	
室町時代	乙明城跡	金城町入野	須恵器の甕の破片、炭化米など出土。	
	笠松城跡	金城町今福	郭、堀切など。	
	田代城跡	金城町今福	郭、堀切など。	
	小松原山砦跡	金城町今福	郭	
	吉留砦跡	金城町下来原	郭	
	雲城山城跡	金城町上来原	郭、古井戸など。	
	金木山城跡	金城町上来原	暦応5年(1342年)6月・9月の2回、来原合戦あり。	
	小国城跡	金城町小国	主郭、空堀、武者走りなど。	
	火の迫城跡	金城町小国	郭、堀切など。	
	花城跡	金城町波佐	主郭、空堀、武者走り、帯郭など。	
長田城跡	金城町長田	郭、堀切など。		

◎ この年表は、金城町内の遺跡めぐりのガイド・ラインとして作成したものです。

作成者：隅田正三

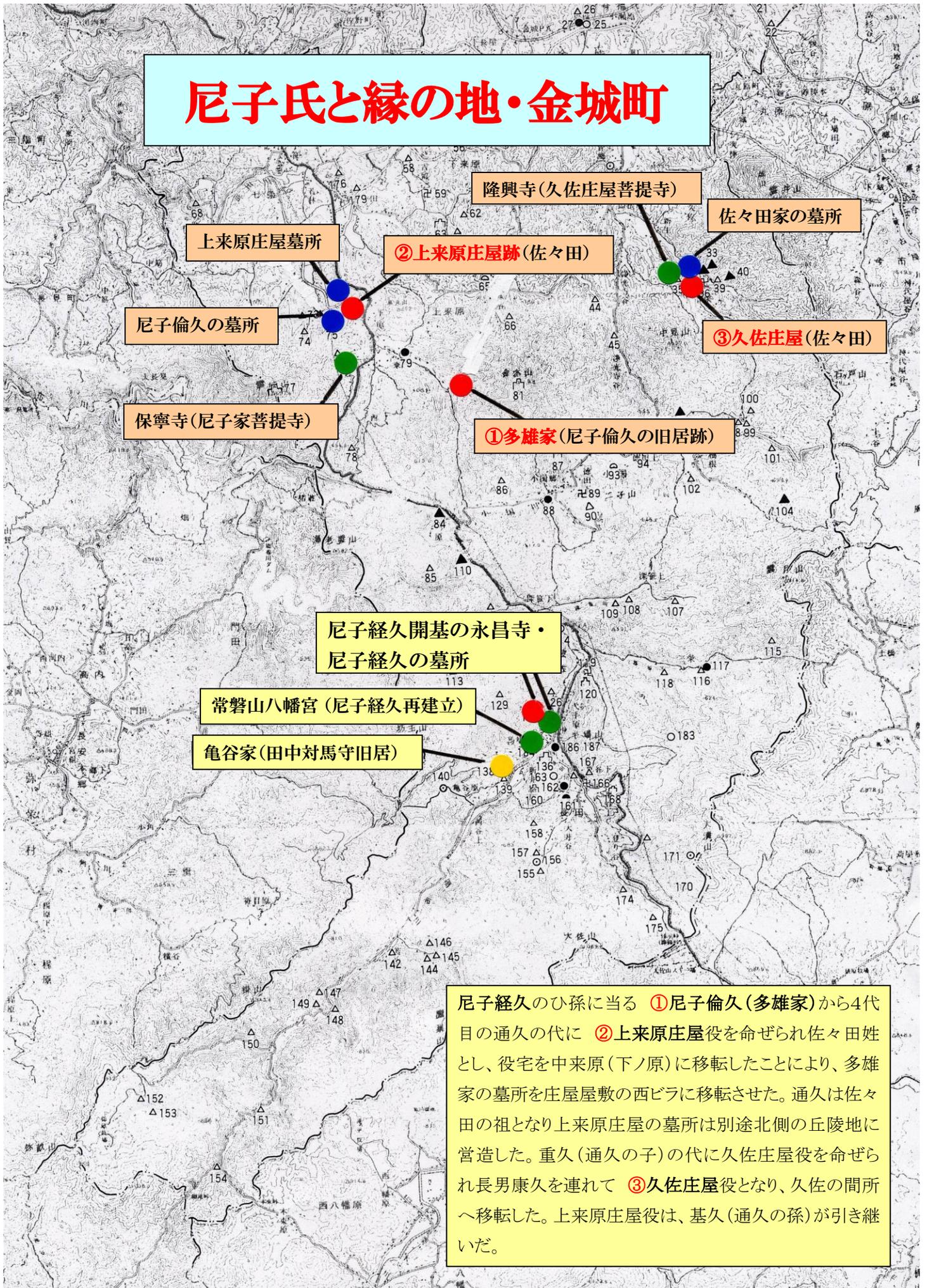
## 石見領地確認

元暦元年11月25日 (源頼朝御下文)	元暦2年6月 日 (源頼朝御下文)	建仁3年12月 日		備考
		国方	御庄方	
	伊甘郷	伊甘		
久富名				国衙領扱い？
木束郷		木束		
永安別府		永安		
阿刀別府		阿刀		
大井原		大井原		
市木別府		市木		
河本久富		河本		
宅野別府		宅乃		
長田別府				国衙領扱い？
疋見丸毛別府	疋見別府	疋見・丸毛		
上津毛別府		上津毛		
益田庄	益田庄		益田庄内(益田郷)	
温泉郷				国衙領扱い？
飯多郷			(飯多郷)	
安富			(安富名)	
得屋	省内得屋郷		(得屋郷)	
高津				国衙領扱い？
千与末名内 小石見郷	小石見・吉高・吉光	石見		
周布郷		周布		
鳥居別府		鳥居		
	仲野			
	弥富		(弥富名)	
			(井村)	
			(納田郷)	
兼栄・兼高父子所領	元兼高進退領掌也	謹検事情による	兼季恩裁賜御下	



金城町長田地区の大井谷の棚田風景(古代から鉄穴流しで形成された長田別府の中心地)

# 尼子氏と縁の地・金城町



- 隆興寺(久佐庄屋菩提寺)
- 佐々田家の墓所
- ②上来原庄屋跡(佐々田)
- ③久佐庄屋(佐々田)
- 上来原庄屋墓所
- 尼子倫久の墓所
- 保寧寺(尼子家菩提寺)
- ①多雄家(尼子倫久の旧居跡)
- 尼子経久開基の永昌寺・尼子経久の墓所
- 常磐山八幡宮(尼子経久再建立)
- 亀谷家(田中対馬守旧居)

尼子経久のひ孫に当る ①尼子倫久(多雄家)から4代目の通久の代に ②上来原庄屋役を命ぜられ佐々田姓とし、役宅を中來原(下ノ原)に移転したことにより、多雄家の墓所を庄屋屋敷の西ビラに移転させた。通久は佐々田の祖となり上来原庄屋の墓所は別途北側の丘陵地に営造した。重久(通久の子)の代に久佐庄屋役を命ぜられ長男康久を連れて ③久佐庄屋役となり、久佐の間所へ移転した。上来原庄屋役は、基久(通久の孫)が引き継いだ。

## 尼子倫久の墓所



永禄13年来原へ移住した尼子倫久の墓所(元多雄の墓所から大八車で現在地上来原庄屋跡の裏山へ墓所を移転)

前列左から、倫通室の墓、倫通の墓、倫久の墓、倫久室の墓。後列左から宗嗣の墓、宗久の墓



上来原庄屋佐々田家の墓所、倫久の墓所から200m離れた小高い丘の上にある。

前列左から通久妻の墓、通久の墓、基久の墓、基久妻の墓、久秀妻の墓。

佐々田家の墓所は、三列で21基の墓が埋葬されている。

# 「桂迫たたら場」勘場の陰陽

桂迫たたら場の勘場(たたら場事務所)を新設するにあたり、方位について見立てを依頼した文書。図面に、部屋ごとの注意・説明書きが貼り付けられている。別添資料で、「帳場」、「くど」、「鉄蔵」、「せついん(便所)」の吉凶が記されている。辰歳と記載があるので、弘化元年6月29日付け、三浦彦左衛門宛、差出しは、広島県川小田の茂将となっている。

